

策の考え方は。

答 出産や子育てに繋がる結婚支援については、男は仕事、女は家事という性別役割分担意識が根強く残っていることや、女性が結婚や出産によって働き続ける環境が整っていないという状況が未婚者の増加、少子化の要因として考えられる。男女共同参画施策における少子化対策として、昨

年は男性が子育てや家事等に参画するための講座を6回開催しており、今後も男女がともに家事や育児等に協力し合っ

て担っていくという機運の醸成を図るため少子化要因の解決に向けての事業を積極的に取り入れて行きたい。

問 奈良県ではイベントを企画して男女の出会いの場を提示されているが、鳥根県の出雲市でも市の主催で婚活パーティーを開催して応援をされている。本市では少子化対策として出産、子育ての前提である結婚するための出会いの提供等はしているのか。また、市内には橿原神宮を初めとして多数の神社、仏閣が存在するが、それらパワースポットとのタイアップなどの考えは。

答 本市の現状としては、香

久山スポーツエリアにおいてスポーツを通じた婚活イベントを実施しており、今秋に開催予定の飛鳥リレーマラソンの中の1つの種目として婚活の部門をつくることも計画し、出会いの機会をつくることで少子化の歯止めになればと考えている。パワースポットとの連携に関しては十分に活用していきたい。

問 市内のパワースポットや現在、建設予定のホテルを活用して婚活イベントを企画し、結婚につながる出会いの場を提供することで、結婚式は市内の神社、お寺、ホテルを利用してもらう。橿原市で出会い、橿原市で結婚式を。そして橿原市に住み、橿原市で出産してもらうことがさまざまな施策の活性につながるかと考えるが。

答 建設計画中のホテルは、観光施設としては、広く活用し、さまざまな人々が集まり、触れ合い、新たな人と人がつながっていく地域の交流できる施設であると考えており、少子化対策としての婚活パーティー開催等、色々な用途でのホテル活用は地域全体の活性化、観光客誘致につながる

ものと考え、PRしていく。また、中南和地域との連携も一層強化し、効果的な活用を検討していきたい。

催されるものとは違い、若い女性層など若い方が多かったのが印象的だったが、本来であれば来場者にアンケートをし、どこから来られ何を



観光政策

問 ゴールデンウィークの期間を挟んだ1カ月に、キトラ古墳壁画の特別展が、東京国立博物館で開催された。広域行政事務組合のメンバーで現地視察もしたが、大盛況であったと聞く。総括を聞きたい。

答 4月22日～5月18日の期間開催され、連日来場者が列をなし、来場者総数は11万9,268人、1日平均4,587人という大盛況で終わった。また、併設の「飛鳥—キトラ2016—」で、藤原京を復元したジオラマ模型や4K裸眼3D映像を放映し、こちらも盛況であった。商工会議所や観光協会の協力による物販販売も好評だった。

問 客層は、我々の地域で開

催されるものとは違い、若い女性層など若い方が多かったのが印象的だったが、本来であれば来場者にアンケートをし、どこから来られ何を

知ったのかなど、調査・分析し、次に繋げるべきだと思いが、できなかったのか。

答 キトラ展の市場調査は実施していないが、併設の「飛鳥—キトラ2016—」記念イベントとして飛鳥広域行政事務組合主催の「ひとをつなぐみち 映画で語る飛鳥の魅力」の応募状況で、応募者の地域や性別は把握できる。今後、機会を逃すことなく市場調査の充実を図りたい。

問 どこから来られた方が多かったのか。

答 定員以上の応募があり、東京都が311名、神奈川県が94名、千葉県84名、埼玉県30名という順で、関東圏に集中していた。申込みは女性が多かった。

問 今回のイベントは、キトラの周辺整備の国営公園が整備された後の2016年に常設展示されるイベントのプレオープンだったと思うが、今後も地域全体で盛り上げていくべきでは。

答 現在、県道橿原神宮東口停車場明日香線を国道169号から畝傍中学校北側を東に向け整備中で、これが開通すると、藤原京はもとより甘樫丘から高松塚・キトラへのアクセスが向上し、広域観光の基礎的なルートが確立する。バスルートの見直し、新規路線の設定、周遊タクシーやサイクリングルートの設定などを考えたい。

問 観光客にとっての奈良県のイメージ構造は、シカと大仏で奈良市方面が中心で、日帰りという考えである。このイメージ構造を何とか変えなくてはいけない、本市は全力でホテル誘致に取り組んでいる。本市の宿泊客は、飛鳥や吉野まで広域に移動される可能性が高く、広域観光で滞在時間を伸ばし、旅の最後に本市で食事や買い物、もしくは宿泊といった流れを戦略的に打っていくべきと考えるが、広域観光についての今後の具体的な考えや取り組みは。

答 中南和地区には世界遺産級の観光資源が数多く存在するが分散しており、広域的な観光展開がしにくい。一体的な観光施策を行うため本市が

観